

豪雨災害への対応を通じた 地域のレジリエンスの向上

池邊 淑子

いけべ としこ

**大分県 福祉保健部
健康政策・感染症対策課**

被災の概要

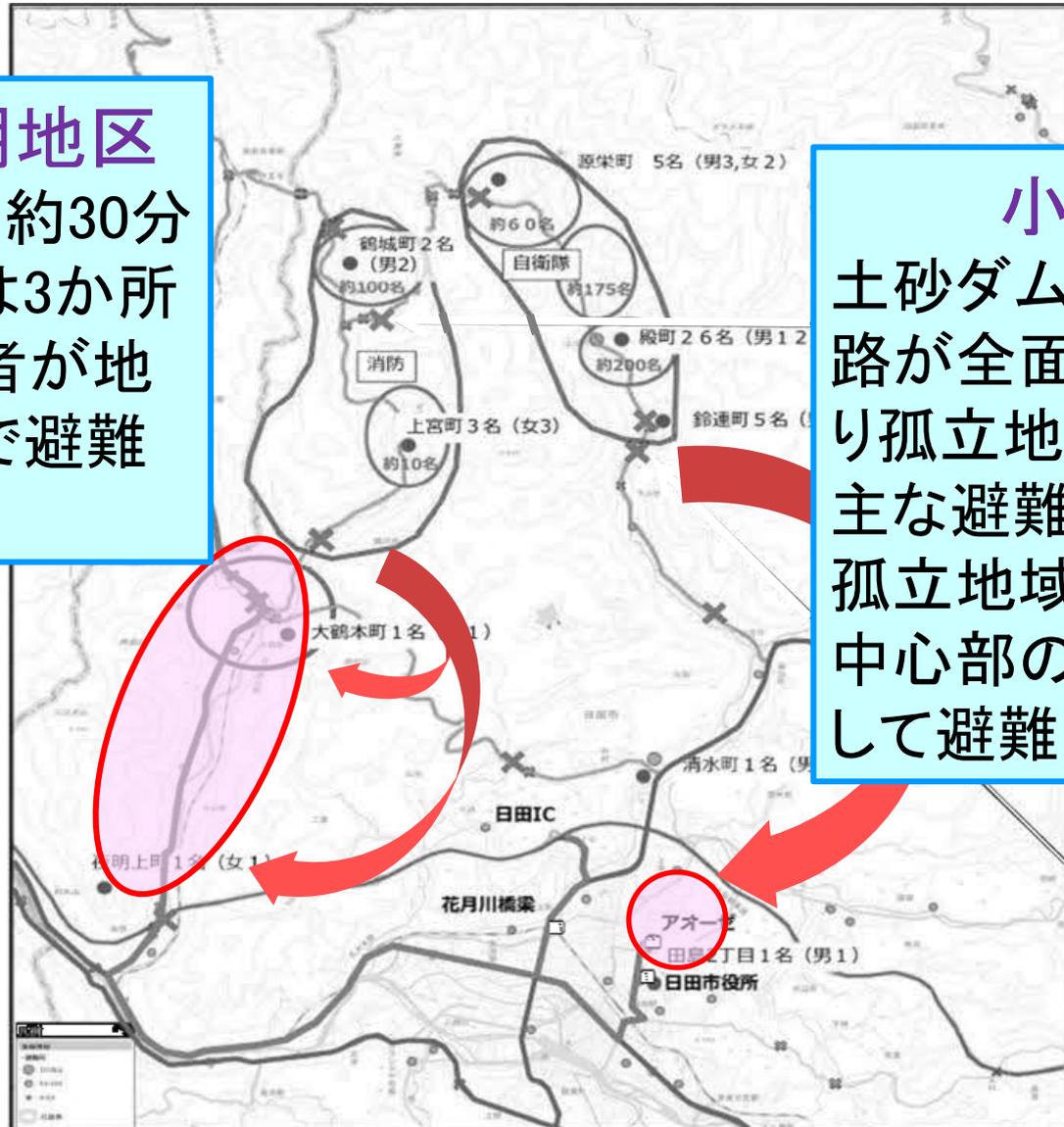
- 記録的豪雨による河川氾濫、土砂災害、道路破損による孤立地域の発生
- 死亡者:3名
- 負傷者:4名
- 最大避難者数:372世帯 1,002名
- 発災Day2(7月7日)の避難者数:440名 
- 孤立地域の人数:149名(7月9日17時時点) 

発災当日 7月5日(Day0)

- 保健所が所管する施設等の被害状況確認
 - 医療機関の状況確認とEMIS代行入力
 - 薬局・水道・産廃処分場等
- 難病・結核・精神患者の安否確認
 - 在宅ALS患者の安否確認と避難指導
 - レスパイト入院の調整
- 日田市との連携確認と情報共有
 - 被災の状況
 - 避難所の状況

被災した2地域の避難状況

大鶴・夜明地区
市中心部より約30分
主な避難所は3か所
地域の被災者が地
域の避難所で避難
生活を継続



小野地区
土砂ダム形成により道
路が全面通行止めとな
り孤立地域となる
主な避難所は2か所
孤立地域の被災者が市
中心部の避難所に移動
して避難生活を継続

緊急期 7月6～7日(Day1～2)

- 保健師による避難所の巡回健康相談
- 市へのリエゾン保健師派遣
- 県内DHEAT派遣調整
- 避難者の薬剤追加処方調整
- 医師会による避難所の巡回診療調整
- 医療チーム派遣に関する本庁との調整
- 避難所の食事供給業者等への衛生指導
- 消毒対応調整
- ペット同伴避難の対応と調整

応急期 7月8日(Day3)～

- 市と連携した避難所の健康管理
 - 保健師の巡回相談と健康教育
 - 避難所の環境整備
 - 感染対策・熱中症対策・段ボールベッド配布
 - 食事提供業者や炊き出しボランティアの衛生指導
 - ペットへの対応: ケージ設置、残留ペットの調査と給餌
 - 被災動物救護対策本部会議の開催
- 児童相談所との連携による要フォロー児対応
- 被災世帯への戸別訪問
- 二次避難(市内宿泊施設の利用)の調整
- 災害廃棄物対応
 - 集積保管場所の巡回調査
 - 廃棄物対策会議の開催

避難所における保健医療ニーズ

- 着の身着のままの避難者の薬剤ニーズ
- 猛暑と高湿度および環境面（エアコン、風呂、寝具、間仕切り、等）の熱中症など健康悪化リスク
- 車中泊等のDVT（エコノミークラス症候群）リスク
- 日中も避難所に滞在する高齢者のADL低下と生活不活発病リスク
- 腰痛・高血圧・不眠・精神的不安定の訴え
- 避難所での栄養面の偏り
- マスコミ、様々な支援者や議員視察等の対応で避難者が疲弊

医療チームの派遣調整

地元医師会との連携

県内の保健医療支援チームを調整

- 災害医療コーディネーター派遣：7/10～7/15
- 医療チームの派遣と活動の調整
 - 医療救護班：7/7～7/21
市医師会・大学・日赤・DVTチーム
 - 孤立地域へのDMAT派遣：7/8
 - DPAT：7/9～7/18
 - JRAT：7/9～7/18
 - 大分県薬剤師会：7/6～7/9
 - 災害支援看護師：7/11～7/17
- 県内市町村保健師の派遣調整
- 市へのリエゾン保健師派遣

7/6県内DHEATを要請

- 平成24年にチーム設置済
- 業務増かつ長期化の予測
- 平時から非常時への切替の「宣言」のため
- 職員のスキルアップも目的

各種医療チームの派遣要請

- 災害医療コーディネーターの助言をもとに、保健所長として医療チームの派遣を要請
- 派遣要請にあたって留意した点
 - 支援活動の目的や内容を明確化
 - 活動期間や職種別人員の要望も
 - 県内派遣が原則
 - 地元の医療資源との連携や引継を意識
 - 県と各種団体との協定などの根拠を明確化

地元医師会との連携

- 医師会長のリーダーシップのもと、市医師会の全面的な協力が得られた
- 医師会理事を中心として休みの時間を活用した避難所巡回を継続して実施
- 保健所のミーティングへの参加による情報共有
- 災害拠点病院の院長が「市内の患者はすべて引き受ける」と宣言（強力なバックアップ体制）
- 市医師会災害対策委員会の定期開催による協力体制の維持
- 保健所長と医師会長のホットライン

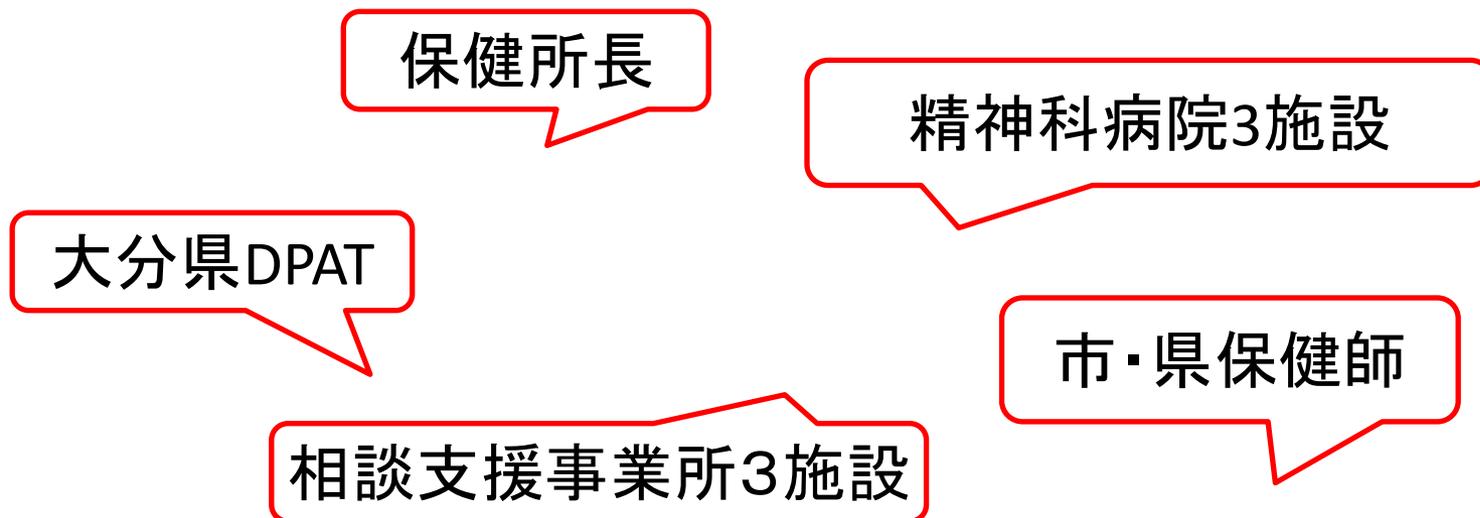
被災者支援の段階的な終了

- 外部医療チームの撤退時期の検討
 - 災害医療コーディネーター，医療チーム，災害拠点病院，医師会長，保健所長による会議
 - 被災者の医療ニーズが減少していることを共有
 - 外部が撤収するにあたり，地元の医師会の活動を継続する必要性を検討
 - 災害拠点病院の救急受け入れ体制を確認
 - 被災地域の診療所の協力を確認
- 外部チーム撤収後も，昼休みを活用した巡回を一定期間継続する方針とした
- 市保健師と地元医師会との連携が基盤

地元の保健医療資源への引継

	医療チーム	DPAT	JRAT
引継先	市医師会	市・県保健師	住民ボランティア (日田市健康運動リーダー)
	被災地域診療所	精神科医療機関	
	災害拠点病院	相談支援事業所	歯科衛生士会
	市保健師	包括支援センター	

DPATと精神科医療機関との連絡会議



DPATの活動内容と対応事例について、関係者に報告
DPAT活動終了後の支援体制について協議

- ✓ 相談支援事業所が中心となりサポートすること
- ✓ 状態悪化時には精神科医療機関のバックアップを得ること
- ✓ 今後も連携を継続すること

平成29年九州北部豪雨災害の対応から得られた地域のレジリエンス向上

- ✓ 急性期からの医療と介護の連携の重要性を共有した
- ✓ ケアマネと医師会との災害時の連携が強化
 - 災害時の情報共有会議へのケアマネの参画
- ✓ 市の在宅医療介護連携推進会議により、発災前から連携が図られていた
- ✓ 被災直後の追加処方の方法を医師会員が習得したため、行政の介入が不要となった
- ✓ 発災時の「医師会災害対策委員会」の迅速な開催へ

令和2年7月 豪雨災害

- 災害対応の定例会議をWEB開催
 - 市・保健所・医師会・災害拠点病院・薬剤師会・ケアマネ協議会等の関係者の参画
- 外部支援は不要と判断，地域の資源のみで対応
- 市保健師の対応スキルが向上
 - 避難者のアセスメントが円滑
 - DVT対策や熱中症対策も適切
 - 避難所の感染対策などの避難所の環境整備も

令和5年 豪雨災害

- 大雨特別警報の発令
 - 深夜から未明にかけての避難行動
- 避難者は多かったが、医療に関しての外部支援は不要と判断
 - 市保健師と保健所保健師がペアで避難所を巡回し、健康観察を実施（人材育成の視点も）
 - 市保健師のアセスメント結果をWEB会議で共有
 - 医師会等からの支援が必要な場合は、保健師の情報により個別に対応

平時の連携が災害対応に有効

- 日田市在宅医療介護連携推進事業
- 大分県看護の地域ネットワーク推進事業
- 介護保険の地域ケア会議
- 難病患者地域支援ネットワーク事業
- 保健事業連絡会，管内保健師活動検討会
- ヘルシースタートおおいた地域推進専門部会

あらゆる機会を通じた連携構築

- 医師会理事会での行政説明の機会確保
- 医師会主催の研修会や会議への参加